

探究的な学び（市民科一貫プランの実践）

校長 吉川 信次



先日、CS Day（コミュニティ・スクールデイ）を本校で開催しました。品川コミュニティ・スクールに関わる方々（校区教育協働委員、教職員、児童、保護者、地域住民）が一堂に集まり、一つのテーマについて話し合ったり、検討したりすることが目的です。まずは5・6年生合同で取り組んでいる探究的な学びの授業を参観していただきました。「理想とする社会」について児童が考えた8つのテーマ（貧困、文化、町づくり・安心安全、命、福祉、教育・スポーツ、自然、自由・平等・公平・公正）を基にどのような取組を行っ

ていくのかについてグループで話し合う授業です。大人でも非常に難しい課題であるので自分事として捉え、考え、実践にまで繋げていけるのかどうか心配な点が多々ありました。「命」をテーマにしているグループでは殺処分されている犬や猫の現状を何とかできないか。「貧困」グループでは子ども食堂の認知を増やして利用率を上げる取組はできないか。「町づくり」グループでは安心・安全で誰もが住みやすくするために事件・事故を減らす工夫はできないか。子どもたちはタブレット端末や図書資料などから大まかな現状を知り、自分たちに何ができるかということを実際に考えていました。そして授業後、各グループの代表児童が校区教育協働委員の方々の前で自分たちが今後取組もうとしている内容について発表し、参加している大人の方々から率直な疑問、感想や意見、助言などをいただきました。「ポスターをはるだけで事故は防げますか」「寄付をお願いするためには何が必要になりますか」「現状をもう少し調べたらどうですか」「幅広いので対象を絞ることはできますか」等、時間が足りなくなるぐらい大人の方々と6年生との白熱したやり取りが続きました。私が大変感心したのは、質問に正対しながら自分の言葉で相手に伝えることができていたことです。この学習にかける意気込みのような熱さを子どもたちの姿から感じました。

【今回参加された方々の主な感想】

- 内容的に粗削りなところはありますが5・6年生合同のゼミ形式で学習することは大変意味がある。
- アクティブに真剣に取り組んでいる子どもたちの姿を間近に見ることができ大変有意義であった。代表児童一人一人の想いが熱く、子どもたちの切実な願いであると感じた。
- 幅広い課題を自分事として捉えられているところに感動した。失敗したとしてもこの学習経験が中・高につながり社会にでも役に立つと思う。
- 学習のために地域や同窓会等を活用していくことで社会とのつながりが実感できるようになる。

今後、子どもたちが生きていく社会は予測することが困難であり、答えのない様々な課題に対して協働しながら解決策を見つけ出していく力が大切になってきます。変化の時代を生きる子どもたちには、どんな環境・状況に置かれようと自力で未来を切り拓いていくための能力・スキルを身に付ける必要があります。その土台を作るのが「探究する力」です。本校では1・2年生生活科、3年生以上は市民科一貫プランの実践を通して「探究する力」を育んでいこうと考え、2学期から全学年で探究的な学びを実践しています。今後、学校公開等を通して保護者の方や地域の方々を招いてその一端を見ていただきたいと思います。また、来年度には探究学習発表会として本校の特色ある行事に位置付けていきたいと考えており、詳細につきましては今後の全校保護者会等で説明いたします。

～展覧会にむけて～

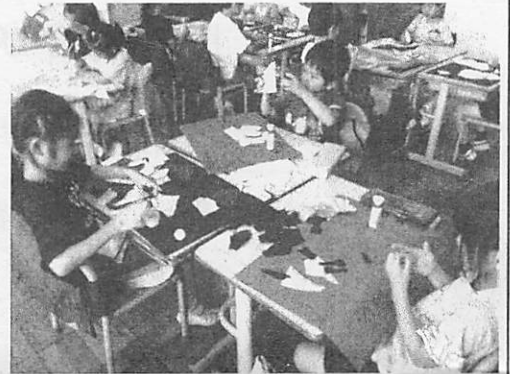
1年「心を込めて制作中…」

1年担任 小池 絢子

1年生は、展覧会に向けて図工の時間に心を込めて制作しています。どんな課題にも目をきらきらさせて取り組むことができている姿に感心します。

「ちぎって はって」では、色画用紙をちぎって、絵を描きました。大きくちぎったり小さくちぎったりする活動が子どもたちにとって新鮮だったようで、「こんな形になった！」「きょうりゅうのあたまみたいな形に見える。」と偶然できた形を楽しみながら制作をしていました。

他の1年生の作品には「なぞのいきもの コロボッコロ」「はこと はこをくみあわせて」があります。どうぞお楽しみに！



2年「大きくそだて、びっくりやさしい」「いっぱい うつして」

2年担任 難波 淑子

2年生の展覧会の作品は、生活科や国語などさまざまな学習とつながっています。生活科で育てたミニトマトやとうもろこしが、大きく大きく育ったらどうなっちゃうのかなと、想像を働かせて描きました。ミニトマトのお家の中に人が住んでいたり、とうもろこしのお家からすべり台が続いていたり、とても楽しい作品に仕上がりました。

「いっぱいうつして」では、ステンシル版画にチャレンジしました。ローラーにインクをつけてコロコロしていくうちに、こんな世界にしたいなと子どもたちの発想が広がっていきました。国語の学習「スイミー」の挿絵のような、すてきな作品が出来上がりつつあります。

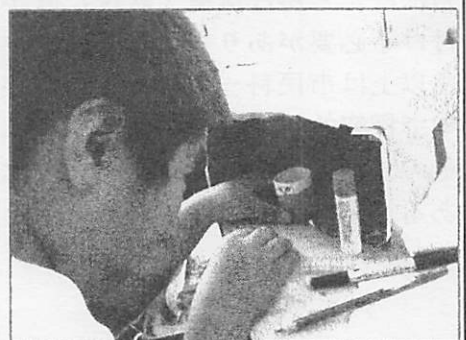
展覧会の会場で、子どもの学びを見付けてください。



3年「ふくろの中には一体何が!？」 3年担任 中元 早紀子

3年生が展覧会に向けて制作している立体作品は、「ふくろの中には何が…」という作品です。写真は紙袋の中に、子どもたちが思い思いの世界を表現しているところです。「どんな世界が広がっていたら面白いかな。」と考えながら、画用紙やモール、綿やカップ麺の器など身の周りにある物を使って工夫しています。「海の世界が広がるふくろ」や「恐竜が歩き回るジャングルのふくろ」など外見からは想像できない、内側に広がる世界の面白さをぜひ味わってください。

当日は他に平面作品「にじんで広がる色の世界」「未来にタイムスリップ!」と共同作品「トントンくぎ打ち、コンコンビー玉」を展示予定です。



4年「アイディアを広げながら」

4年担任 森本 睦美

写真は、平面「へんてこ山の物語」の作品作りに取り組んでいる様子です。あったら面白い山、不思議な山はどのような山なのだろう…「赤い実がなる木がある!」「つり橋がある山がいいな」「右側は昼間で左側は夜にしようかな!」ユニークな山の形をたくさん考えた後、その山に生える植物や住んでいる生き物などにも想像を広げ、楽しい物語を生み出していきます。自分の表したい山の感じに合わせて、スポンジを使って模様を付けたり、絵の具に水をにじませたり、小さくちぎった紙を貼り合わせてコラージュにしたりと、思い思いに工夫をしています。友達と一緒に作品を作る中で、互いのいいところを真似してみたり、話している中でアイディアが広がったりと、世界でたった一つ、その子がそのときにしか作れない素敵な『山』がたくさん出来上がっています。ぜひ見てください!



5年「作品にのせた想い」

5年担任 曾根原 和明

展覧会のテーマ「つくる手に想いをのせて」に合わせて、現在、作品を製作している5年生に、どのような想いをのせて作品をつくっているか聞きました。

平面作品「あったらいい町、どんな町」

「実際にはないものを描けるのが絵だから、絶対に実際にはないけれど私が行って見たいなという想いを手に乗せました。」

平面作品「色を重ねて現れる生物」

「私の『色を重ねて現れる生物』のテーマはうさぎです。うさぎはジャンプ力が高いのでジャンプをする足を見て欲しくて強調しました。また、耳が長いところをよく見て欲しいので耳も大きく強調しました。うさぎ本来の色にとらわれず、色々な色を使い、うさぎの形を表しました。」

立体作品「ズラシック・パーク」

「ズラシック・パークでは大きい山や東京タワー街の風景を表しました。後ろには大きい山、真ん中には東京タワー、前には家、とバランスを考えて配置しました。」

各々が感性を働かせ、一生懸命に作品と向き合っている様子が伝わってきます。多くの方に作品を見ていただき、こだわりいっぱいの想いを受け取っていただきたいと思います。ご来校お待ちしております。

6年「展覧会を支える学芸員」

6年担任 鈴木 由季

6年生は、展覧会のテーマでもある「つくる手に想いをのせて」一人一人が自分の表したいイメージを膨らませ、思いを形にしていきます。小学校最後の展覧会なので、今までの集大成が見られることを期待しています。さらに6年生は、今年度「子ども学芸員」を務めます。会場にいるお客さんに対して、ギャラリートークをすることで、多くの方に展覧会を楽しんでもらえるよう、6年生一丸となって取り組みます。学芸員では、次の3つのことをめあてに取り組みます。

- ①各学年の作品について紹介したり、対話をしたりすることで、見に来ていただいた方に鑑賞を深めてもらうこと。
- ②様々な方の作品の見方に触れて、自分の鑑賞を深めること。
- ③気持ちよく展覧会を鑑賞してもらえるように、明るくあいさつしたり、声をかけたりすること。

ただ作品の説明をするだけでなく、好きな作品をたずねたり、自分の好きな作品を紹介したりして、お客さんと対話をします。知らない来場者の方に声をかけるのはなかなか勇気がいることだと思いますが、勇気を出して自分から声をかけ多くの人に展覧会をより楽しんでもらえるよう活動します。作品を鑑賞するのはもちろん、6年生が学芸員を行う姿にもご注目ください。

年間重点生活目標「正しい姿勢を意識して生活しましょう！」

今月の生活目標

生活のめあて	チャイムスタートをしましょう
保健のめあて	うがいと手洗いをしましょう
給食のめあて	感謝して食べましょう

11月の予定

日付	曜	主な行事	日付	曜	主な行事
1	水	朝読書① 避難訓練（二次避難）	17	金	児童集会 展覧会（児童鑑賞日）②
2	木	図書集会 委員会	18	土	展覧会（保護者鑑賞日）授業の公開なし 造形活動（5年）学芸員（6年）
3	金	文化の日	19	日	
4	土		20	月	振替休業日
5	日		21	火	放送朝会
6	月	安全指導日	22	水	午前授業 個人面談①（6年三者面談）
7	火	放送朝会 縦割り班会議①（5・6年）	23	木	勤労感謝の日
8	水	朝読書② 午前授業	24	金	音楽朝会 午前授業 個人面談②
9	木	朝読書③	25	土	
10	金	朝読書④ フレンドタイム	26	日	
11	土		27	月	午前授業 給食集会 個人面談③ 6年家庭科「乾物」出前授業 社会科見学（5年） すくすくスクール（全学年 13:15～）
12	日				
13	月				
14	火	放送朝会	28	火	放送朝会 午前授業 個人面談④ 6年家庭科「乾物」出前授業
15	水	人権標語掲示（12/8まで） 6年学芸員リハーサル	29	水	午前授業 個人面談⑤ 伝統文化出前授業（4年）
16	木	展覧会（児童鑑賞日）①	30	木	縦割り班会議②（5・6年） 伝統文化出前授業（4年）

生活指導部より

オールクリア

4年担任 奥 優香里

今月の生活目標は「オールクリア」です。オールクリアとは、教室を離れるときや下校するときに、机の上に出ているものをしまっ、何も無い状態にすることです。

専科の授業などで教室を移動するときに、休み時間ギリギリまで遊んでいると机の上に物が出っぱなしになってしまうことがあります。その慌てた状態が積み重なっていくと、机やロッカーの中が整理整頓されないという悪循環になってしまいます。

子供たちには、時間にゆとりをもつことで整理整頓ができること、また整理整頓をしておくことで時間にゆとりがもてることを話しています。

リレーコラム「かかわる・創る」

5年担任 藤田 貴城

高学年となり、下級生とのかかわりが増えた5年生。体育祭で全員が係を担ったことで「一人一人の力はわずかでも、それぞれが責任を果たすことで大きな力となる。」と感じたようです。人と「かかわる・創る」力はこれからの社会を生き活躍していくには、不可欠な生きる力です。学校は、教科の学習だけでなく、様々な年齢の仲間たちと「かかわる・創る」ことができる場所です。6年生と協働で取り組み始めた市民科の学習、展覧会やフレンドまつりなど学校行事から日々の生活までみんなで「かかわる・創る」ことができるよう指導し、支えています。